

🐇 年頭に当たって 🐇



新年、明けましておめでとうございます。
昨年は青少年の健全育成につきまして、ご理解とご協力をいただき、深く感謝いたします。本年も引き続き、よろしく願いいたします。

じっかんじゅうにし みずのとう 十千十二支で読む 2023 年は「癸卯」

調べてみると、今年は癸卯（みずのとう）年のようです。

一般的に十二支でいうと干支は「卯」ですが、それと十干じっかんを合わせると「癸卯」という年になります。あまり聞き覚えのない十干じっかんの癸みずのととは、古代中国の暦法で順序や番号を表す「甲」「乙」「丙」「丁」「戊」「己」「庚」「辛」「壬」に続く最後の要素みずのと「癸」で、陰陽五行説は水の陰とも言われます。この十二支と十干を組み合わせたものが60通りあり、これらが一巡すると還暦となります。《こんな初めて聞きました(#^#)

そして、60年前にあった前回の「癸卯」年には、かの名作「鉄腕アトム」が、日本国産連続30分テレビアニメ第1号として、放映が始まった年。超長寿番組「キューピー3分クッキング」、超ロングセラー「日清焼そば」などが世に出たのもこの年なのです。

ですので、この年に始まるものはあたりが多い?!と言えるのかも知れません。

さらに調べてみると、こんなことも記載されていました。

十二支にはそれぞれ守護の仏さまがついており、卯年の守り本尊は文殊菩薩。「三人寄れば文殊の知恵」という言葉からもわかるように、知恵や才能の仏さまでもある。

文殊菩薩の守護を得ている卯年の人は、その才覚で成功すると言われている。

卯年の人は今年から何か新しい習い事を始めたり、資格試験に挑戦したりすると良い結果が得られそうだ。・・・ということです。

卯年の人に限らず、コロナ禍でもみんなが、前向きにいろんなことに挑戦し、良い結果が得られる年になることをお祈りします。 🐇ピョン! 🐇ピョン! 🐇ピョン! 🐇

浅口市青少年育成センター 一同

戦

予想通りというか、残念ながらというか、今年の漢字は「戦」となりました。ご存じのように、これは公益財団法人日本漢字能力検定協会が、その年一年の世相を表す漢字を全国から募集した結果です。

調査によると、その理由として以下のことが考えられるようです。

- ① ウクライナ侵攻、北朝鮮の相次ぐミサイル発射などにより「戦」争を意識した年。
- ② 円安・物価高・電力不足や感染症など、生活の中に起きている身近な「戦」い。
- ③ サッカーW杯や北京冬季五輪での熱「戦」、野球界での記録への挑「戦」に関心が集まる。

昨年末、フィンランドのサンタクローズ村に、子どもたちから今までにないプレゼントの願いが届いたそうです。『平和をください』と❤️❤️❤️ 世界中の願いです。

子どもを信じるだけで、子どもの未来は変わります

これは Conobie (コノビー) という『子育てに、笑いと発見を』をコンセプトにした、子育てメディアから発信された、記事のキャッチコピーです。なるほど！と思う部分があったので紹介します。

～目の前にいる子どもの姿は、それが「すべて」じゃない！子どもを信じるだけで、子どもの未来は変わります～



どのような子どもであっても、これから大きく伸びるであろう資質や人間力などを必ず秘めています。そうした未知の可能性を持つ子供に対して、より多くの環境に接する機会を作ってあげるのが親の役割であり、子どもの可能性を心から信じてあげるのが親の努めだと私は考えています。つまり、**子どもがいろいろと挑戦する機会が得られるかどうかは、親自身の子どもの可能性を信じる度量にかかっている**とも言えるのです。

子どもは子ども独自のセンサーを備えていますから、親が思っている以上に親の考えや気もちには敏感です。そのセンサーを利用して、親がしていたことをある時期から子どもに任せてみましょう。具体的には、**子どもに対する指示を減らして、子どもの自主性を促す**ようにしてみましょう。そして、よくできたときは素直に誉めてあげましょう。そうすることで、子どもは親の気持ちを察し、自分で考えて行動するようになります。つまり、親から承認されたことによって自主性が芽生えてくるのです。

ピグマリオン効果

これはアメリカの心理学者ローゼンタールとフォードが行った実験により誕生した「人は他者に期待されるほど意欲が引き出されて、成績が向上する」という状況を示す教育心理学の法則です。サンフランシスコの小学校で、学級担任に今後成績が伸びて来る子だという名簿（本当は適当に選んだ）を渡したところ、その名簿に載っていた子どもたち全員の学力が本当に向上したという実験結果を基に研究された効果です。

原因は①担任が名簿の子どもの成績が向上するという期待を込めて眼差しを向けていたこと。②その子どもたちも担任から期待されているということ意識して学んだこと。とされています。



このピグマリオン効果でも言えるように、「子どもに対する親・教師・周囲の目や姿勢」そして「この子は才能があって大きく伸びるだろうという期待感」によって、子どもたちは大きく伸びていくのです。逆を言えば、「この子は勉強も運動もできないどうしようもない子だ」と親や教師が思い期待せずにいたら、その通りになってしまう可能性さえあるのです。

心の底から「子どもの可能性を信じること」が大切だと思っています。

子どもを育てるということは、やはり周囲の大人がどう関わるかにかかっているようです。まずは子どもを信じて待つということを、頭を中心に据えてみることでしょうか。